地域環境美化功績者を受賞
鎌倉を美しくする会

環境省が毎年6月の環境月間に合わせて環境保全、地域環境美化に関して顕著な功績があった者（又は団体）を称える表彰に、鎌倉市の市民団体「鎌倉を美しくする会」が選ばれ、「地域環境美化功績者」表彰を受けた。今年度の受賞は121件（36人、85団体）。

「鎌倉を美しくする会」（高田晶子代表・会員約20人）は1988年に発足し、公衆トイレの美化、散乱ごみの防止、違反屋外広告物の除却、違反ベンチ除去などを行ってきた。2000年ごろから鎌倉にも拡がってきた落書き防止に関する取組みを開始した。鎌倉市は2005年に落書き防止条例を制定。同会は市との協働事業で落書きの防止と消去に取り組んでいる。

貼り紙も落書きのうち。見つけたらはがす

道具を積み込んだ自転車で活動する高田さん

高田さん（84）は、2009年から毎月落書きの件数を集計して市と県に報告する一方、落書きの通報を受けると、消去剤などの用具が積み込まれた自転車に乗って消しに行く。「見つけたらすぐ消すのが再発防止に一番効果的。だから見つけてくれる人を増やすことも肝心」と話す。2019年の被害件数は大幅に減ったという。

鎌倉でワイン用ブドウの収穫
元ソムリエの夏目さん

鎌倉市関谷と七里ガ浜の畑でワイン用のブドウの収穫が9月5日と12日に行われ、約500キロが収穫された＝写真。

津西在住の夏目シンゴさん（51）が2014年から栽培を始め、現在、3200㎡の畑に垣根栽培でピノノワール、メルロー、カルベネフラン、シャルドネ、リースリングの5種類、2500本を超える木が栽培されている。

今年は7月の長雨で病気が心配されたが、8月は好天続きで生育が回復し、収穫期を迎えた。収穫はコロナ禍で昨年のようにボランティアを募集しての作業ができず、夏目さん夫妻と知人で行った。東京都内のワイナリーに持ち込み、アルコール発酵、瓶詰を行い、来年11月に販売予定。

夏目さんは、以前ソムリエの仕事をしていて、鎌倉に転居したのをきっかけに何か地域に貢献できることはないかと考え、鎌倉産のワインをつくることを決心した。庭にブドウの木を5本植えて試験栽培することから始まり、関谷に800㎡の農地を借りて本格的な栽培に着手、さらに1600㎡の森林をユンボを使って地元の人と開墾して畑を増やした。鎌倉市役所の紹介で七里ガ浜にも1000本ほど植えているが、ここでは「ブドウの苗木の会」を発足し、一口1万円で地域に協力を求め、40人が会員になった。会員にはワインが2本プレゼントされる。

昨年収穫したブドウがワインとなって今年初めて100本ほど市場にでまわる。夏目さんは「鎌倉は海が近いことで土壌にミネラルが含まれていてそれが独特の味わいになっている」と話す。将来は、市内にワイナリーを設立し、そこで収穫したブドウを醸造し「鎌倉ワイン」として販売するのが夢という。

歴史的名建築でひとときを
「葉山加地邸」民泊スタート

葉山の別荘文化を今に残す国の登録有形文化財「加地邸」（葉山町一色）が10月から民泊を開始する＝写真。

同邸は、旧帝国ホテルなどを手掛けた米国の建築家フランク・ロイド・ライトの高弟、遠藤新が設計した三井物産重役の加地利夫の別邸（1928年竣工）。地形に合わせた流れるような建築「プレーリースタイル」の外観は背後の三ヶ岡山に溶け込み、外壁や柱に多用された大谷石、水平に伸びる軒などが特徴。建具や家具、照明に至るまで総合的に設計された幾何学的なデザインは現存する遠藤新の住宅で最も重要なものという。

往時の文化を宿す別荘が次々と消えていく中、2016年に川崎市の（株）ヨネヤマ（武井雅子取締役）へと引き継がれた。翌年、国登録有形文化財となった同邸を後世に伝えるため、延べ百人の職人が入り昨年11月から遠藤建築への回帰を念頭にしたリノベーションを行った。大きな変更点は女中控室の床を取り払い吹き抜けにした地下のスパや、中央に暖炉を備えたデザインテーブルが印象的なダイニング横の屋外テラスなど。

「デザインと同時に優れた機能が備わる加地邸の魅力や当時のライフスタイルを味わってもらえたら」と話す武井さんは、文化財を守りつつ人々へ伝え、地域にも溶け込めるような方法を今後も模索していくという。

1棟貸し（定員6人）の宿泊は2泊42万9千円～。問い合わせ unico 事業部☎044・211・1711（K）

若宮大路にマリーゴールドを植樹
かまくら桜の会の緑化活動

かまくら桜の会（高柳英麿会長）が、9月17日、若宮大路の二の鳥居から下馬四つ角にかけての道沿いの植栽帯にマリーゴールドの花苗1300株の植込みを行った＝写真。

マリーゴールドは病害虫や強い日差しの中でも丈夫に育つ。同会が季節ごとに行っている植樹活動の一環で、藤沢土木事務所から提供された苗を、同会会員や周辺事業所の職員ら約30人の協力で植えた。

高柳さんは、「今後も鎌倉桜の普及を中心にまちの緑化に尽力したい」と話している。

文学つれづれ ⑱④
吉川英治『宮本武蔵』（五）

赤羽根龍夫

吉岡一門との死闘の後、比叡山に逃れた吉川「武蔵」は宿坊で傷ついた身体を休めながら、下り松で殺害した又七郎の供養のために仏像を彫っていた。

しかし武蔵を息子・又八の仇とつけ狙うお杉婆の讒言（ざんげん）を真に受けた比叡山の門徒は武蔵に下山を迫った。武蔵は足をくじいたお杉婆をつれて比叡を離れた。途中、お通に手紙を出す。

花田橋のときは、そなたが待った。こたびは、わたしがそなたを待とう。

武蔵からの初めての手紙に、お通は心を躍らせて武蔵の弟子・城太郎と大津へ向かう街道を急ぐ。

武蔵は道すがら茶店で小次郎が自分を讒言するのを聞く。

小次郎も、武蔵が名目人の一少年までも討ったということを、口を極めて、罵倒した。単なる罵倒にとどまらず、これを人道的にみて―また武士道の上からみて―剣の精神の上からもゆるし難い人間であると断じつける。

小次郎と武蔵は出会いの最初から相手に敵愾（がい）心を抱いていた。

最初の出会いは吉岡清十郎が武蔵との決闘を告知する立て札を立てた五条の大橋であった。関ケ原の落武者であった又八と武蔵を助けたお甲のくれる人を増やすことも肝心」と話す。2019

下から朱美、お通、お杉婆＝吉川英治歴史時代文庫『宮本武蔵五』（講談社）

娘・朱美は恋しい武蔵に会おうと五条大橋にやってきた。

一方、朱美を無理やり自分のものにした小次郎は朱美を追って、大橋の上で武蔵に想いの丈をぶつける朱美を見る。小次郎は武蔵を敵愾心を持って橋の袂から「白い眼で睨（ね）めつける」。武蔵も小次郎に気が付く。お互いの「猛獣が猛獣を見るような敵愾心」が、やがて厳流島の戦いとなって行くと吉川英治は考えている。

その後やっと出会った武蔵とお通は旅を続ける。武蔵は一条寺下り松での決闘の前に見せたお通の全幅の信頼に、お通のどんな願いでも受け入れようとしていた。

剣を、ゆがめない限りのことは。修行の道から堕落しない限りの事は。

お通をつれた道中、武蔵は宿屋や道すがらお通の肉体を意識していた。

或る時は、芙蓉の花のような汗ばんだ皮膚を、或る夜は屏風をへだてていても漂ってくる黒髪のにおいを…

そしてついに武蔵はお通を草むらの中に押し倒す。お通は武蔵の胸の中でもがき、

「いけないッ、いけませんッ、武蔵様ッ。そ、そんなことっ…貴方ともあろうお人が」と悲しげに、彼女が嗚咽（おえつ）したので―武蔵はハッとした。

武蔵は「ななななぜだっ？」と呻いて手を離してその場を離れた。

お通はそばの木陰で武蔵が戻ってくるのを狂おしく待った。

何でだ！

やがて武蔵は近くの瀧に打たれていた…

ここで二人が結ばれないことに関しては読者の間で解釈は別れている。結ばれないことに不自然さを見てお通に歯がゆさを感じる読者が多いようだが、恋慕の情さえ断ち切って剣の修行に一筋に励む武蔵と、一途に武蔵を慕うお通という吉川英治のテーマからすれば当然のストーリーであろう。吉川英治の頭には晩年の自戒の句「独行道」の「恋慕の道思いよる心なし」があったのである。

気まずくなったお通は武蔵から離れ城太郎少年を連れて旅を続けるが、かつての許婚である又八に捕まってしまう。又八は自分の意のままにならないお通を縛りあげて引き立てる。

この街道では夢想権之助と仕合をしたり、仙台藩の武士と出会ったり、吉岡一門の門弟に命を狙われたり多くの出合いがある。

（神奈川歯科大名誉教授）

終の棲み家を考える ⑦⑧
〈基礎編〉価格は正直

住宅の基礎を見た時、普通は気がつかない事が多いのですが、コンクリート一発仕上げで造られた基礎を見ることがあります。

鉄筋を組み型枠の中にコンクリートを流し込むわけですが、固まってから型枠を外します。一発仕上げとはその状態のまま終わりにする基礎の事です。

昔のような木製の型枠と違い、鋼製の型枠に代わり、寸法精度が上がったこともあって、かなりきれいな表面に仕上がって見えます。

本来はその基礎の外側の部分をモルタルで仕上げるものです。理由は一発仕上げできれいに見えている基礎も気泡の跡など分かりにくい穴があいている場合が多いのです。また工事期間中コンクリートが固まっていく段階で細かなヒビが入ったりすることがあります。固まった基礎の中に雨水などが染み込むと、中の鉄筋を腐らせます。鉄筋が腐ると爆裂して基礎のコンクリートを壊してしまうのです。ですから雨水などの湿気からコンクリートの中の鉄筋を守るために基礎を防水して守っているのです。

全体工事費を安く抑える為とはいえ、お勧めできないコストダウンの一例です。基礎面から赤茶色のシミの様な色が出てきたら、中の鉄筋が錆びている証拠で、月日が経つと基礎に割れが出てきます。

■日向建設　鎌倉市大船1―15―3
☎0467・47・5454　http://www.hyuuga.co.jp

ゆみ中医漢方クリニック
漢方婦人科
漢方思春期婦人科
漢方不妊治療婦人科
診療時間
完全予約制
午前：9:00～11:30（火～土）
住所：逗子市小坪1－18－4
TEL：0467-22-9184
http://www5e.biglobe.ne.jp/~yumicyui/
各種健保扱・自費診療有

訪問診療・往診
（医）湘南友和会
さとうクリニック
認知症対応　訪問看護
訪問介護　癌末期管理
在宅看取り　緊急時病院連携
〒247-0061 鎌倉市台5-8-29
TEL 0467-43-5220